

ANAウイングス株式会社所属ボンバルディア式DHC-8-402型JA854Aの
航空事故調査について
(経過報告)

令和5年5月25日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和4年6月25日、徳島県上空においてANAウイングス株式会社所属ボンバルディア式DHC-8-402型JA854Aが飛行中に動揺し、客室乗務員1名が負傷した航空事故について、令和4年6月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報をもとに、更に分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本件調査については、本航空事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本航空事故の責任を問うために行うものではない。

1. 航空事故の概要

ANAウイングス株式会社所属ボンバルディア式DHC-8-402型JA854Aは、令和4年6月25日（土）、熊本空港を離陸し、大阪国際空港に向けて飛行中、徳島空港西南西約40km、高度約17,000ftにおいて機体が動揺し、客室乗務員1名が負傷した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和4年6月25日、航空事故として通報を受け、本航空事故の調査を担当する主管調査官ほか2名の航空事故調査官を指名した。

現時点までに関係者からの口述聴取、航空機及び気象の調査、飛行記録装置等の記録の解析等を実施した。



図1 事故機

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

当該機は、令和4年6月25日、機長ほか乗務員3名、乗客70名、計74名が搭乗し、運送の共同引受による全日本空輸株式会社の定期1626便として、熊本空港から大阪国際空港へ向け、12時51分に離陸した。

同機が、徳島空港西南西約40km、高度約17,000ftで巡航中、13時29分ごろ、機体が動揺した。機体後部のギャレーにいた客室乗務員は、この動揺によって、体が宙に浮き、体勢を崩した状態で落下し、床に打ち付けられて負傷した。降機後、医療機関を受診したところ骨折と診断された。

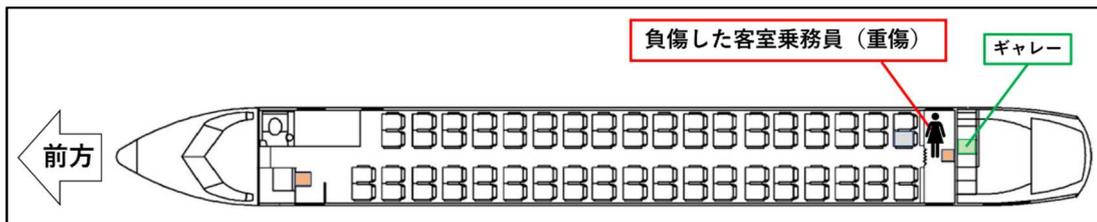


図2 同機配席図

(2) 死傷者

客室乗務員1名 重傷 (仙骨骨折)

(3) 航空機の損壊

なし

(4) 気象

令和4年6月25日13時30分ごろの天気概況は、日本海に停滞前線がのびており、前線の南側の九州～四国では降水域が広がり、発雷を検知していた。徳島県には雷注意報が発表されていた。

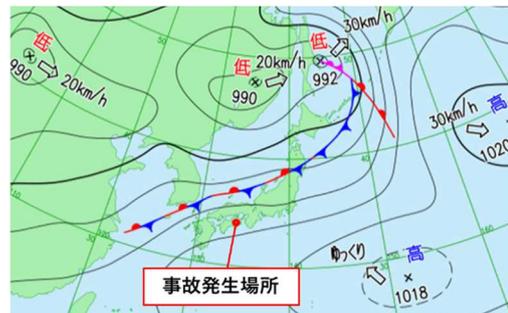


図3 令和4年6月25日12時の日本周辺域実況天気図 抜粋

4. 今後の調査

本航空事故の原因及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、飛行中の揺れの状況や運航乗務員による気象判断の状況など、更なる分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び調査参加国への意見照会を行う必要がある。

本委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等の調査を進める。